

噴煙

2023. 5. 1

昨年秋ぐらいからだろうか。雲一つない快晴の日が、今までよりも多いように感じる。きっと気のせいである。以前は、快晴だろうが何だろうが、さほど気にもとめていなかった。ところが、心持ちが変わってきたのだらうか。「今日は、快晴だなあ」と空を見るようになった。

快晴の日には、必ずと言っていいほど、吾妻連峰と安達太良連山のほうに目がいく。すると、吾妻山の噴煙が気になる。たまにだが、快晴かつ無風という珍しい日がある。そんな日は、噴煙がまっすぐ空に上がっていく様子がよく見える。過去にも吾妻山の噴煙は上がったことがあったが、今回は噴煙の量が多いように感じる。少なからず恐怖を感じずにはいられない。

試しに、調べてみた。気象庁によると、「噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続」とある。火山性地震は、多い日には120回を数える。我が吾妻山は生きている。いつ噴火するとも知れない活火山なのである。快晴無風の日々の噴煙と吾妻小富士の雪うさぎは、見事なコントラストと言えなくもない。だが、どちらかというとな似合いである。

以前、吾妻山火山ハザードマップなるものを見たことがあった。これを見ると、急に噴火が現実味を帯びてくる。実家は大丈夫だろうか。学校はどうだろうか。我が家は無事でいられるのか。それぞれ地図上で確認してみる。これは、あくまでも想定であって、実際には、もっと大きな被害が出るかもしれない。

地震も怖い、噴火も怖い。逃げられるのか。どうやって逃げるのか。震災の前からだっと思ふ。我が家では、家人が大きなバッグの緊急避難セットを用意してくれた。いざというときには、このバッグを持って逃げることになる。大事なものを探す。見つからない。大抵の場合は、この大きなバッグに探し物が入っている。

震災以後、二度ほど、このバッグを持って外に出たことがあった。幸い、家の中が大変なことになっただけで、本格的な避難は回避された。吾妻山が噴火し、避難することになれば、幸いとはいかないだろう。家を捨てて逃げることになるだろう。

雪うさぎと、空高く上がる噴煙を見ていると、のどかで平和な気分になってくる。これは、大海原を見るときも同じであろう。だが、山も海も突如として、その姿を変えることがある。平穏と災害は背中合わせである。

地震よりは、噴火のほうが対応はしやすい。今でも、毎日、噴煙を上げて、注意喚起をしてくれている。風がなくまっすぐ上がる噴煙には怖さを感じる。備えだけは、おろそかにしないようにしなければならない。